

**2011 「東日本大震災」**

全国各地の青年部・女性部が支援物資の輸送、炊き出し、瓦礫の撤去などの支援を行い、震災後も特産品販売会や復興イベントを開催

**2012 「平成24年7月九州北部豪雨」**

記録的な大雨による河川の堤防決壊に対し、発生から2日目には九州一円より青年部員が駆けつけ、約20日間で1470人の部員がボランティア活動を実施

**2014 「平成26年8月豪雨」**

(北海道、京都府、兵庫県、広島県など)

全青連より、「全国統一100円玉募金」事業からの支援金を拠出  
ボランティアが去った後も、息の長い支援を行った

**2015 「関東・東北豪雨」(栃木県、茨城県)**

鬼怒川の越水・決壊の翌日より、青年部による復旧作業、女性部による炊き出し支援を行う

**2016 「熊本地震」**

震災直後から支援物資を届け、各地から現地入りした青年部・女性部の仲間が炊き出して温かい食事の提供を行う

**2016 「台風第10号」(岩手県、北海道など)**

商工会青年部・女性部が河川の氾濫であふれた土砂の撤去作業などを加え、被災した子ども向けのイベントを開催

**2017 「平成29年7月九州北部豪雨」**

青年部ネットワークで福岡県内の青年部員らに呼びかけ、翌日には県内全域から集まった水や食料品などを被災地に送る

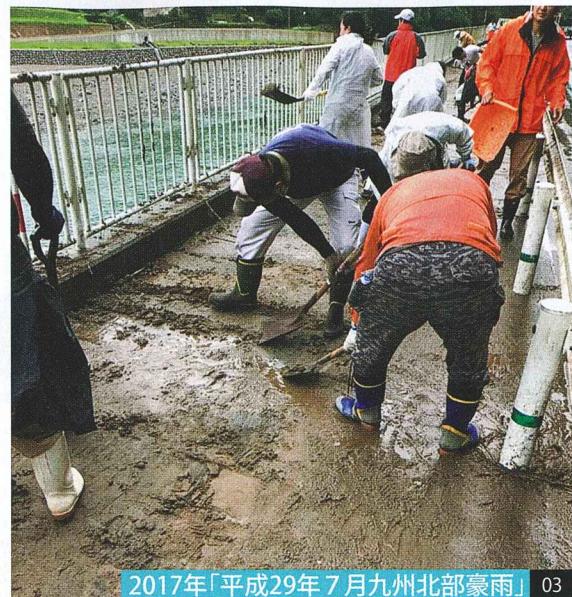
**2018 「平成30年7月豪雨」**

(岡山県、広島県、愛媛県など)

「熊本地震での恩返しができれば」と、熊本県の青年部から被害の大きかった広島県に水などをいち早く配達したほか、岡山など各地で早期復旧に向けて懸命に活動

**2018 「北海道胆振東部地震」**

厚真町など被害の大きかった地域では、余震が続くなか、青年部・女性部が炊き出しなどの支援を実施



2017年「平成29年7月九州北部豪雨」03



2015年「関東・東北豪雨」04



2016年「熊本地震」05

03／流木や土砂のかき出しを行う青年部員

04／常総市で復旧活動を行う茨城県内の商工会青年部員

05／震災直後の青年部・女性部仲間による温かい炊き出しの支援

地震や水害など、災害が発生するたびに、いち早く支援の手を差し伸べてきた商工会青年部・女性部。

「仲間の力になりたい」という思いで行われた支援活動を、振り返ってお伝えします。

**商工会****青年部・女性部の糸****—災害復興支援の軌跡—**

震災発生直後に届けられる支援物資

2016年「熊本地震」



避難で流出した住民を呼び戻そうと、宮城・  
石巻かほく商工会が開催した「おがつ復興市」

津波で流されてしまった写真やアルバムをきれいにし、  
持ち主に返す活動を行うあだたら商工会女性部メンバー

**協力を惜しまない女性部の皆さんに感謝**

全国商工会女性部連合会  
会長 末武榮子

**応援してくれる青年部の仲間がいます**

全国商工会青年部連合会  
会長 越智俊之



全女性連では、東日本大震災のときから「500円玉募金」を始め、現在は「災害対策100円積立基金事業」を実施して、基金のなかから、被災地に支援金を拠出しています。被災地の女性部の皆さんには、炊き出しの資金などに活用いただき、大変喜んでいただいております。そんな活動ができるのも、快く募金していただいた全国の女性部員の皆さんのおかげです。また支援物資を送る際にも、女性でなくては気がつかない思いやりや気配りのある支援に、被災地から多くの感謝の言葉をいただいている。こうした被災地支援に対して協力を惜しまない女性部の皆さんに、心より感謝を申し上げます。

全国には被災地に思いを寄せて支援や応援をしてくれる青年部の仲間たちがいます。全青連でも「100円玉募金」という基金で、被災地に支援金の拠出を行っています。

災害が起きると、仲間の力になりたいと、どこよりも早く被災地に駆けつけます。そして被災直後の支援だけでなく、多くのボランティアが去った後も、被災地域や近隣に住んでいる青年部員たちが息の長い支援を行っています。青年部は、共助の意識がとても強い団体です。

そしてその支援には本当に頭が下がるとともに、私は誇りに思っています。